

第38回 大阪国際女子マラソン記念鼎談

フリーアナウンサー 株式会社奥村組 元女子マラソン選手
加藤綾子さん × 奥村太加典社長 × 野口みずきさん

大阪で輝き 世界のステージへ

「第38回 大阪国際女子マラソン」(主催:日本陸上競技連盟、関西テレビ放送、産経新聞社、サンケイスポーツ)が1月27日に開催される。協賛社として大会を支援する総合建設会社、奥村組の奥村太加典社長と、アテネ五輪女子マラソン金メダリストの野口みずきさん、フリーアナウンサーの加藤綾子さんが大会への思いや女性の活躍などについて語り合った。



全員で成し遂げる 姿に共感

加藤 38回目を迎える大阪国際女子マラソンを記念して、皆さんにお話を伺ったことありがとうございます。奥村組さんは前回から大会に協賛され、女性アスリートの熱い闘いをサポートされています。

奥村 長く大阪を拠点に仕事をさせていただいてきたこともあり、マラソンに力を入れている選手に共感したことも大きな理由です。この競技に挑戦されたことと感謝の気持ちがあります。ランニングブームもあり、今では若者男女問わず楽しむスポーツになってきています。



おむらたかのり/中央大学卒業、1986年に奥村組入社。土木分野の業務に携わり、2001年、38歳で5000mに転向。2005年のベルリンマラソンではアジア最高記録、日本最高記録を更新。現在、ランナー関連施設「名城公園(tonari)」の名誉会長も務める。

建設業界も 働く女性を応援

加藤 奥村組さんは、建設現場での女性活躍推進に力を入れているとお聞きしました。奥村 トンネルを掘ったり、大きな橋や建物を作る建設現場は、体力的に厳しいイメージもあり、長く男性中心の職場でした。でも今は様変わりし、女性ならではの環境が整えられ、女性ならではの活躍の場が広がっています。

奥村 私自身、働く女性が増えるというイメージが、女性活躍推進のきっかけになりました。建設業界も、女性活躍推進の場が広がっています。奥村組は、女性活躍推進に力を入れているとお聞きしました。奥村 トンネルを掘ったり、大きな橋や建物を作る建設現場は、体力的に厳しいイメージもあり、長く男性中心の職場でした。でも今は様変わりし、女性ならではの環境が整えられ、女性ならではの活躍の場が広がっています。



大阪国際女子マラソン1月27日(日)号砲
女性アスリートが新春の「なにわ路」を駆け抜ける大阪国際女子マラソンは、1982年にスタート。歴代優勝者には、ロザモタ、カトリンボーレ、渡井陽子、野口みずき、福士加代子など輝々たるメンバーが名を連ねる。今年の号砲は、1月27日(日)12時10分、ヤンマースタジアム長屋で。

新春の大阪から、世界をあとと言わせる走りを!

人は人と支え合い 共に成長

加藤 金メダルと言えは野口さんです。アテネ五輪の感動は忘れられません。野口 アテネはとにかく暑くて、最初の10キロくらいは軽い熱中症のようになり、後半は、でも、ここで負けなダメだと自分の気持ちで戦っていました。奥村 これまで支えてくれたチームの皆さんや、応援してくれた人々の想いを力にしようか。



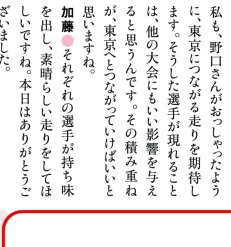
おむらたかのり/中央大学卒業、1986年に奥村組入社。土木分野の業務に携わり、2001年、38歳で5000mに転向。2005年のベルリンマラソンではアジア最高記録、日本最高記録を更新。現在、ランナー関連施設「名城公園(tonari)」の名誉会長も務める。



2010年からマラソン競技を続ける奥村社長、社員と駅伝に出場するなど、走ることで交流を深めている

2020年に つながるように

加藤 さあ、野口さん、大阪国際女子マラソンの大会記録も保持されていますね。奥村組は、女性活躍推進に力を入れているとお聞きしました。奥村 トンネルを掘ったり、大きな橋や建物を作る建設現場は、体力的に厳しいイメージもあり、長く男性中心の職場でした。でも今は様変わりし、女性ならではの環境が整えられ、女性ならではの活躍の場が広がっています。



おむらたかのり/中央大学卒業、1986年に奥村組入社。土木分野の業務に携わり、2001年、38歳で5000mに転向。2005年のベルリンマラソンではアジア最高記録、日本最高記録を更新。現在、ランナー関連施設「名城公園(tonari)」の名誉会長も務める。

奥村組 堅実に、誠実に、112年

●独自の技術開発力

1907(明治40)年に創業した奥村組は、「堅実経営」、「誠実施工」を信条に、土木建築分野で独自の技術開発に取り組み高い評価を得ている。得意とするトンネル工事では、「シールド工」と呼ばれる特殊なトンネル掘削機で安全に地中を掘り進む「シールド工法」に強みを持つ。また、地震から建物を守る「免震技術」のパイオニアとしても知られ、1986年に日本初の実用免震ビルを建設。以来、免震マンションや免震ビル、文化財を守る免震装置の普及などに貢献している。さらに超高度ビルの建設にも技術を生かし、「あべのハルカス」の施工に参画するなど、実績は多岐にわたる。

●人々の記憶の中に

奥村組が携わってきた工事は、人々の記憶に残る工事が少なくない。戦後復興の機運が高まるなか、地元の人々の熱意に応えて建設した大阪のシンボル「二日目通天閣」もその一つ。約1年、週日連夜の作業に延べ2万6千人を動員し、1956年に竣工された。また、阪神・淡路大震災では、壊滅的な被害を蒙った本橋地区に2年かかるという大規模な復興工事を、最も被害の大きかったJR六甲駅周辺の復旧工事に担当。ジャッキアップ工法を駆使し、わずか74日間で成し遂げ、早期の鉄道全線再開に大きく貢献した(1995年竣工)。

www.osaka-marathon.jp/

※JR六甲駅復旧工事の取材は、「カンパニー」60周年特別号「BRIDGE」はじまりは1965.1.17神戸が1月15日に全国ネット放送された。現在、建設現場が動画サービスでNEXTで配信